

連盟ニュース

297

# 神奈川 10

2009.10.13



「2つの旭岳」(北海道・大雪山・夫婦池にて) 撮影：トリコシアキオ(<http://tory.com/>)

巻頭言 組織登山者としての役目	後藤理事長	2
岩場でのセルフレスキュー講習会 11/7日(土)～8日(日)	救助隊	3
第17回全国ハイキング交流集会の報告	全国ハイキング委員 小野寺英夫	4
トムラウシ山の事故で何を学び・何を教訓にするか		5
会山行紹介 やま++ 初めての穂高連峰 6 / 夏山合宿紹介 藤沢山の会 戸隠		8
会主催クリーンハイク10/4 川崎ハイキングクラブ		11
「花と緑のスポーツ防災公園」の実現のご協力を(川崎)		12
第21回全国海外登山集会案内(千葉)11/28(土)～11/29(日)		7
低体温症・凍傷にならないためには(公開講座)11/18(水)	町田グラウス山の会	10
関東ブロック自然保護集会案内(山梨)10/31(土)～11/1(日)		13
全国自然保護担当者会議案内(長野)11/14(土)～11/15(日)		13
第9回全国救助隊交流集会案内(富山)10/31(土)～11/1(日)		14
第11回東日本女性交流登山集会案内(東京・高尾)2010/1/23-1/24		14
9月事務局長会議の報告 / 登山時報紹介		15
神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定		16
県連のスケジュール / 全国会議行事予定		18



神奈川県勤労者山岳連盟

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-18-2 永田ビル3階

発行責任者 後藤 真一

TEL/FAX 045-434-2726 <http://www.k-rouzan.net/>

## 巻頭言

# 組織登山者としての役目

理事長 後藤真一

登山を愛する者が組織する我々勤労者山岳連盟や日山協などが現在および将来において何をすればよいのか、個人的な思いを述べます。私はほとんどそれに従い行動しています。いわが「理念」であるといってもよい。

1. 未組織登山者を取り込むことは重要ですが、未組織登山者在りきを前提に、彼らに対して、正しい登山の知識や技術、そして文化を啓蒙し、社会性を発揮していく。

(外向きのベクトル)

例えば従来主に労山会員内で行ってきた登山学校、講習会、交流集会、自然保護活動、山岳関係情報などを積極的に公開、受け入れを行う。これはリーダー養成学校、遭対部主催講習会や昨年度40周年企画のひとつとして行ったワンコインセミナーにおいても未組織登山者の受講が多数いることから、ニーズが高いことが伺える。山岳会などが通常行うべき教育の代替を行うことにより、登山界の中の社会的貢献をその意義として明確に示すことができる。

2. 各山岳会内部の活動を、会員一人一人のニーズを満たすべく活動的かつ魅力的なものにするため、中枢となる「人」創りをしていく。

(内向きのベクトル)

会員ニーズを満たせるように活発に活動している会は減少していると感じる。

すなわち個人主義的な形上の組織であり、せっかく会に入っても、自分のやりたい志向の会員は少なく、ガイド山行やツアー登山に流れてしまう傾向である。

会の流れを創る中枢会員がいなければ会活動は魅力的、活動的にはならないであろう。

現在、私のできるこれを意識した活動は、学校などの教育活動を通じてのみである。限られた場ではあるけれども、単なる登山知識や技術だけでなく、組織に携われる中枢会員を育成していく。

是非、「開かれた連盟」「社会的貢献ができる連盟」「魅力的な会活動」をモットーに、さらにチャンネルを広げ、次世代にも継承できるようにしていきましょう。

以上

2009/10 救助隊

## 「岩場でのセルフレスキュー」講習のお知らせ

2009年度の「岩場でのセルフレスキュー」講習を、下記の要領で開催します。

- 日 程 11月7日(土)～8日(日)・・・できるかぎり2日間受講してください
- 場 所 鷹取山(参加人数によっては丹沢または別の岩場に変更することがあります)
- 内 容 1) 初級  
 初心者～初級者を対象とします  
 ・ビレイヤーの自己脱出～ロープ登り  
 ・1/3システムでの負傷者の引上げ  
 ・負傷者の引き下ろし  
 ・負傷者を介助してのラペル、負傷者を背負ってのラペル など
- 2) 中級(応用技術編)  
 中級者以上を対象に、技術研究会として実施します  
 ・カウンター・ユマール  
 ・カウンター・ラペル などリード・クライマーの救助を想定した内容が中心です

### 募集対象

- 神奈川労山 救助隊員  
 同 リーダー・学校生(初級、中級)  
 同 加盟各会の会員(岩トレ経験者に限ります)

### 締め切り

2009年10月31日(土)

参加希望者は各会の救助隊員、又は救助隊事務局まで申し込んでください。  
 問合せ先も同じです。

救助隊事務局：宮澤 haru3miy@orchid.plala.or.jp

救助隊登録者以外の人は  
 連絡用、緊急時用に 別途  
 申込書に記入していただきます

申込書は、救助隊事務局にて  
 準備し、各会の救助隊員および  
 県連関係のメーリングリストに  
 流す予定です。



## 第17回全国ハイキング交流集会の報告

9月12日(土)・13(日)の2日間、八ヶ岳・唐沢鉱泉で、全国都府県からハイキングの仲間74名が集い「第17回全国ハイキング交流集会 in 唐沢鉱泉」が開催されました。

今回は、会員の高齢化対策、次世代を担う若年層の受入れ対策、これにどの様に取り組みべきかをメインテーマに、又会を運営する後継者や山行リーダーの確保など課題解決への知恵・工夫・培ってきたことを語り合い、ハイキング文化の継承・発展に結び付けることができました。

1日目、大阪府連・浜田氏からは、16年間に亘る「ハイキングセミナー」への取り組み、特に青年層を意識した募集案内のネーミングからチラシ・ホームページでのイラスト・写真挿入の工夫、又ハイキングセミナーでは、優秀な卒業生の積極活用、話し上手な女性スタッフを前面に押し出す、公営会議室のみの使用、山行の繰返しでの仲間づくり・クラブの結成と若者中心の運営支援など、聴く者にその苦勞よりも成果の喜びを感じさせた発表

が印象的でした。

次に福岡県連・大塚氏からは、登山と健康・登山における事故防止を目指し、北九州産業医科大学の協力を得て取組んだ「Eペ-ス登山の取組み(運動能力測定山行)」とその分析の結果が発表されました。登山という行為は、一般に想像する以上に運動強度の高いこと、それに対応する私たちの身体のかなで起きている現象を見つめることの必要性、又登山中の事故防止から、この能力測定の体験と成果を技術として整備し、フィードバックされることは大きな意義がある。実態の登山とマイペ-スとの大きな隔たり、この乖離を克服することが課題とのことであるが仲間と一緒にでの「マイペ-スでの登山は難しい」。

次に全国労山・井芹遭対部長から最近の重大事故(中高・超高齢者による)多発の現況から二度に亘り「非常事態宣言」に及んだこと。その遭難事故の一つ一つの説明、そして、具体的に事故を起こす体質に触れ、更に遭難対策の課題(気象状況の変化・登山者の高齢化・会クラブの問題・登山技術向上への課題など)解消への継続を、強い思い入れで訴えられました。

次いで行われた特別報告は、「トムラウシ



山の事故で何を学び・何を教訓にするのか」は下記をご参照下さい。

2日目、第1分科会では「会運営・後継者育成と会員拡大」をテーマに、大阪府連の16年に及ぶセミナーへの取り組みを生かした各会・クラブ独自の方策による会員拡大及び高齢化に伴う後継者の育成が主題となり、特に若年層の組織化の重要性が論議されました。

第2分科会では、「事故防止と会員教育」をテーマに、最近の重大事故多発を踏まえ、どうしたら事故を防げるのか、そのための会員教育のあり方が真剣に論議されました。教育の面では、指導者によつての教育のバラツキをなくした基礎教育の標準化、ストック使用以前の講習会・バランス講習会の重要性、登山者の高齢化の面では、加齢に伴う運動体力に比した防衛体力の劣化の自覚、それと年齢に見合った山行計画の必要性及びGPSの中高年齢層での有効利用などが議論されました。

今回の報告は以上ですが、大阪府連・浜田氏は「山歩きの素晴らしさ、山仲間との心のふれあいの素晴らしさ、そして生命の大切さ」を知ってほしいとセミナーで常に語っている由、まさに同感である。

### トムラウシ山の事故で何を学び・何を教訓にするのか

(全国ハイキング交流集会での伊豆HC・鍋島要氏の報告)

伊豆HCの6名は、トムラウシ山の事故の日に同じ条件の中で、相前後し歩いていた方々で、全員無事トムラウシ温泉に下山したが、そこに至るまでに起きたことを鍋島氏は当事者に代わり、事故があつてはならないとの強い願いで、次のように語って下さいました。

1. 09年5月に計画、事前に15kg以上のポッカ訓練3回の実施、装備・防寒の準備。
2. 7月13日、羽田 層雲峡 黒岳石室泊(管理人に15・16日は低気圧の接近で悪天候と聴く)、リダ-からコ-スの変更提案をサブリーダー-が否定する。
3. 14日(快晴)予定通りの行動で、忠別避難小屋泊。15日(雨・風)ヒサゴ避難小屋昼到着・泊、アミュ-ズトラベル(ガイド4名

で1名は避難小屋の場所取り先行者、客15名)に出会う。

4. 16日(雨・強風)アミ-ユズの4名シッカリ者に見え、天候は良くなるとの言を安易に受け入れてしまった。アミ-ユズ4:30出発、伊豆HC5:30彼らに負けてなるものかとの思いで出発。伊豆HCの問題・前日昼到着も天気情報(ラジオ)の収集を怠る、16日トムラウシ温泉の東大雪荘予約、17日飛行機の予約、百名山の目標達成に固執、又リダ-に押し止どめる権限・技量がなかった。この結果、途中アミ-ユズを追い越したが、1名重症(濡れた衣類を着替え・温湯を飲ませ・荷物を分担)、他の2名は低体温症の状態で何とか下山した。

5. 下山後、マスコミ・テレビの取材で、アミュ-ズの遭難事故を知った。東大雪荘では彼らの夕食が虚しく隣のテ-ブルに用意されていた。伊豆HCの問題・山荘における反省会で、天候判断の是非、無事下山であれば総べて良しなのか?リダ-とサブリーダー-が対立し、本来山で仲良くなるものが逆の雰囲気になってしまった。

6. 三島に帰ったメンバ-は、仲間に助けられた・仲間に生命を救ってもらったとの思いで、口が堅く立ち直るに連れ漸く語りはじめた。

7. 伊豆HCでは、組織の問題に発展し、労山の非常事態宣言を確認、その後サブリーダー-は退会した。

8. 参加者全員、三島警察署で参考人として事情聴取を受け(3日間)、計画書から肌着まで山に持参した物一切、求めに応じ提出した。勿論、アミュ-ズの捜査が大前提にある。

全国ハイキング委員 小野寺英夫



## 初めての穂高連峰、そして縦走

やま++ akuri

【日程】2009年8月17日(月)～8月19日(水)

【メンバー】akuri(CL)、Oyajisan(SL)

【テーマ・山域】北アルプス・穂高岳連峰縦走

【天気・コース】17日(月)快晴 上高地～横尾～涸沢

18日(火)快晴 涸沢～北穂高岳～涸沢岳～穂高岳山荘

19日(水)快晴 山荘～奥穂高岳～前穂岳～岳沢～上高地

お盆明けの8月17日から、小屋泊2泊3日で穂高連峰を会仲間のOyajisan(以下Oさん)と二人で歩いてきました。今年の私の山行では、ビッグイベントであり、そして緊張の連続の2日間でもありましたので、感想文を書いてみました。実はこの穂高には、過去地震と台風で二回振られていました。今から思えば、「お前さんには穂高はまだ少し早いよ」と言う山の神の声なき声だったのかも知れませぬ。

17日早朝、新宿からのバスで上高地に到着。ウォーミングアップを終え歩き始める。平日とは言え、人気の上高地だけあって人は多い。横尾では槍に行く人が意外にもほとんどいなかった。本谷橋を渡り、傾斜が少しくつくなるが、岩を踏みしめて歩く。お天気は快晴で、だいぶ暑くなってきた。涸沢ヒュッテの下の斜面には雪がたっぷり残っていて眩しい。今日の泊まりはヒュッテだ。屋上のテラスに出て、Oさんはビール、私はソフトクリームで初日の疲れ

を癒す。以前、残雪期に一度だけ涸沢にきたことがあったが、このテラスからの穂高連峰の眺望は絶景だなと思う。北穂から前穂まで眼前に迫ってくる迫力は素晴らしい。見上げれば見上げるほど、こんな急斜面を本当に登れるのだろうか?と言う心配が先に立つ。小屋は空いていて布団一枚にゆっくり横たわることが出来た。

18日5時前に起床。朝食等を済ませ5時40分に小屋を出発する。今日も快晴のようだ。建て直した涸沢小屋が瀟洒だ。次はここに泊まってみよう。ジグザグの道を登るのだが、思ったよりシンドクない。途中で、食事の猿に出会う。途中から岩道になり、落石を起こさないように慎重に歩く。そんなに苦労せずに北穂高岳の山頂に着く。下から見たのと違って、山頂が随分広い。間近の槍ヶ岳の勇壮な姿をたっぷり堪能する。分岐から涸沢岳へのルートに入る。ここから涸沢岳まで岩場が連続する難所である。岩場の登りは特に苦労はないが下りが、中



でも後ろ向きに下りるのが苦手だ。RCTでの練習不足を痛感する。平場ではイマイチだったOさんの動きが、岩場になると一変して生き活きしてくる。流石に岩好きの面目躍如たるものがある。ともすれば、遅れそうになるので声をかけて待ってもらい、危険な箇所では足元を見てもらったりした。大袈裟に言えば、一步間違えたり、手が滑ったり、躓いたりすれば滑落は免れない。ほとんどが高度感たっぷりの絶壁の連続で、緊張の持続が不可欠だ。お陰さまで喉がカラカラに渴き、ポカリスエットをたっぷり飲んだ。正直、涸沢岳までは遠かった。なんとか山頂に着き時刻も早かったので、のんびりしようと思っていたら、Oさんから「ビールが飲みたくなった」と言われ、小屋に向かう。今日の宿は穂高岳山荘だ。ソフトクリームがないので、ポカリとビールで無事の到着を感謝する。この小屋は、フロアも綺麗でゆったりしており非常に感じが良かったし、食事も大変美味しかった。また、ここで藤沢山の会の某氏夫妻にバッタリ出会い、お互いに驚く。山は狭いと言うのが本当だ。

19日、今日も快晴だ。6時前に出発する。小屋横の岩場を登りきると、ゆったりした道になる。涸沢岳山頂からの眺めでは、砂の道のように見えていたのだが、岩の道だった(当たり前?)。奥穂高岳の山頂は非常に狭く、ゆっくり休む場所もない。写

真を撮ると早々に吊尾根に向かう。遠くからの眺めでは、吊尾根はゆったりと見え、天空の散策路のようだと思い込んでいた(だから素人は怖い)。なんのなんの、岩場のアップダウンの連続で、北穂・涸沢間ほどではなかったが、結構緊張を強いられた。Hちゃんの、「結構アップダウンがあるからね」とのコメントが思い出された。苦勞しながら紀美子平に着き、空身で前穂高岳に登る。西穂・奥穂間の難コースが良く見える。私には無理なコースのようだ。前穂から重太郎新道を下る。いきなり一枚岩の長い下りだ。鎖の長さは30m以上あるのではないだろうか? 足場が少ないのでしっかり鎖を使って慎重に下った。ここで雨に降られていたら怖かっただろうと思う。その後も厳しい下りが続き、岳沢ヒュッテ跡近くのお花畑に出るまでは、滑らないように、石を落とさないように、ゆっくり慎重に歩いた。お花畑では8月中旬と言うのにいろんな高山植物が残っていて無事を祝って出迎えてくれた。ヒュッテ跡からだらだらと下り、河童橋に着いてOさんと無事下山の握手をしたが、穂高を歩いて嬉しかったのか、無事の下山に気が緩んだのか、一瞬熱いものがこみ上げた。こんな気持ちになったのは初めてだった。好天に恵まれた穂高連峰縦走は、大きな思い出として記憶に残るだろう。

## 第21回全国海外登山集会のお知らせ

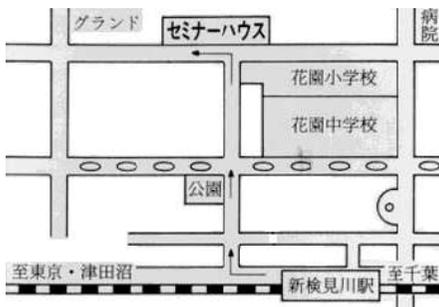
全国連盟・海外委員会

第21回・海外登山集会を下記により開催します。今年は、千葉県連盟が総力をあげて、歓迎の準備を進めています。

会場は、JR総武線・新検見川駅から徒歩10分、緑に囲まれた東京大学の検見川総合運動場です。遠方からの参加の皆様には、羽田空港・東京駅からも大変便利な会場です。大勢の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

- 1、開催日 2009年11月28日(土)13時より29日(日)12時まで
- 2、会場 東京大学 検見川総合運動場
- 3、記念講演 大蔵 喜福氏(マッキンリーでの気象観測・環境問題などで活躍中)
- 4、参加費 宿泊参加 8000円(懇親会込) 1日参加 1000円(資料代のみ)
- 5、アクセス JR総武線新検見川駅下車徒歩10分



東京駅(JR総武線快速) 津田沼・乗換え(JR総武線千葉行) 新検見川駅下車  
羽田空港(京急本線) 品川・乗換え(JR総武線快速) 津田沼・乗換え (JR総武線千葉行) 新検見川駅下車

参加申込み(所属会・参加者名・電話番号・Eメールアドレスを記入願います)

郵便: 162-0814

東京都新宿区新小川町5-24日本勤労者山岳連盟・

海外委員会 / FAX: 03-3235-4324 Eメール: jwaf@jwaf.jp

問合わせ先: 広木国昭[090-8316-2020] Eメール: danphiro@zpost.plala.or.jp

夏山合宿の紹介

## 戸隠 夏山合宿 藤沢山の会

2009年8月14～16日



戸隠スキー場から 戸隠山(左)と高妻山(右奥)

今年の夏山合宿は戸隠キャンプ場をベースにして、24名が高妻山と斑尾山・戸隠山の2コースに分かれ登頂しました。夜のキャンプ場では楽しいひとときを過ごしました。

14日 晴れ キャンプ場集合

15日 晴れ

高妻山グループ 参加者：18名(男11、女7)

《リーダー所感》

戸隠キャンプ場に到着早々事務所で高妻山の登山コースが一部荒れている旨の報告があり心配したが、翌日は8月に入って初めてという晴天に恵まれ、絶好の登山日和というより暑い中、総勢18名、3班に分かれて高妻山を目指した。高低差約1200mで、ピークを幾つも越えるタフな登りがいのあるロングコースで体調を崩し途中で待機した人もだが、コースは荒れておらず頂上を踏み、素晴らしい眺望を楽しめた。時間はかかったが、何とか明るいうちに全員無事に帰着でき何よりだった。

今回、キャンプ場備え付けのテント5張りを借り、食事はテントごとではなく高妻山コース参加者全員で役割分担(全員に材料購入を割り当て、炭をおこす係、お湯を沸かす係、米を炊く係、買い出し係など)を決め、一致協力して料理を作ろうと計画した。皆の協力を得て美味しい料理となり、手巻き寿司、

カレー、サラダ・スープ付きパン食と、毎食ワイワイ楽しみながらすべて完食し、よい思い出となった。また、夏山合宿ではおそらく初という全員個人車両に分乗して往復したが、事故もなく無事帰着でき安堵した。

### 山行経過

牧場を抜け、沢沿いに進み、10回ほど沢を渡り返し滑滝を直上し、帯岩をトラバースして行くと、一不動の避難小屋に着いた。ここから稜線を行き、二釈迦(にしゃか)、三文殊(さんもんじゅ)、四普賢(しふげん)の石碑を目安に進み、五地藏で調子の悪い2名を残し、五地藏山から直角に折れ、樹林



滑滝を直上

帯を下り、少し登って六弥勒に出た。続いて七葉師、八観音を過ぎ、九勢至から高妻山への最後の急登が長くつらい。やっと十阿弥陀の石碑の祭られた高妻山頂上に1班、続いて2・3班が到着した。昼食をとり、記念撮影後、班単位で下山を開始する。下りも歩きにくくバテル者も出て、たちまち1班と2・3班との間が空いてしまう。1班が五地藏で2名と合流する。鎖場のある帯岩、滑滝を慎重に下り、沢を渡り返して牧場に出た。明るいうちに無事帰ることができて予定の行動時間より1時間かかったが12時間強の長い一日が終わった。

### 参加者の感想（1）

4時起きで5時に出発しました。牧場を過ぎ沢沿いの道を登り“氷清水”の湧き水を堪能しました。冷たくて美味。そこから鎖場、トラバースを過ぎ尾根道に、もう秋の気配で数々の山の花が咲いていました。所々から北アルプスの山々がパノラマのように見え、憧れの槍ヶ岳がはっきりと見えます。

また、目指す高妻山もどんどん迫ってきます。最後の9合目から頂上までが険しく長い岩場の連続でひたすら登りました。頂上でやっと昼食、一息入れて、同じ山道を折り返して帰ってきました。本日の行動時間は12時間をオーバーしました。



高妻山と五地藏山

### 参加者の感想（2）

朝5時過ぎに出発し、夕方5時に下山するという長時間な上に、キャンプ場から一不動避難小屋までの前半は10回の沢の渡渉で始まり、その極め付けが縦とトラバースの2ヶ所の鎖場である。岩登りをしていない人には、おっかない所である。沢を登りきった所に、「氷清水」という水場がある。冷たい、美味しい。

一不動避難小屋から、尾根通しに仏様の名前が付けられた小ピークをアップダウンする。その最後の急坂でバテ気味になる。大腿四頭筋が悲鳴をあげ、足が上がらない。帰りにここを下った時、垂直に見

えた。また、炎天下の暑さで、軽い頭痛がして食欲がなくやけに水が欲しくなる。熱射病の初期症状だろうか。持っていった水とお湯が、途中で無くなり、帰りの「氷清水」冷たい水を飲み、頭を冷した時は、助かった気分だ。

次は、料理で夕食が盛り上がったことである。リーダーおよび皆さんの努力で、初日は手巻き寿司と牛のレバ刺、二日目は、角肉のカレー、牛の焼肉、サラダと盛り沢山である。山では、レトルトカレーと餅入りインスタントラーメンしか浮かばない私には、目を見張るばかりであった。



楽しかった夕食の手巻き寿司

### 斑尾山・戸隠山グループ 参加者: 6名(男2、女4) 《リーダー所感と山行経過》

戸隠の山は標高もそこそこ、大したことは無いだろうという先入観が大きな間違いであった。斑尾山はスキー場の山で、コースタイムも5時間ほどの事で余裕で行けるとの思いであったが、車での夜行と雨のため一夜車中で過ごした疲れからか、そこそこのしんどさを感じた。昼過ぎには雨も完全に上がり、帰りはスキー場の中のワラビを摘みながらのんびり下山ができた。ワラビは今夕食のおかずの一品としておいしく頂いた。

15日はメインの戸隠山行であったが、テント出



ワラビを摘みながら下山

発が6時と遅くなってしまった。7～8月の大雨のため奥社からの登山道が閉鎖となってしまう、牧場から沢沿いのルートのピストンとなった。沢沿いの鎖場はそこそこスリルがあり、また稜線は樹林帯ながら両側が切り立っており、わずかの油断も命取りになりかねないというルートであった。さすが修験者が道場とした山域であると感じてしまった。

戸隠は10数年前までは毎年スキーで来ていたが、登山はやはり10数年前に西岳に登ったきりである。めったに来ることが出来ない山域を09年夏山合宿として取り組むことが出来、意義深い夏山合宿になった。

#### 参加者の感想

昨年は行かれなかったため、楽しみにしていました。14日の午前1時頃斑尾スキー場の駐車場に到着。生憎の雨、天気になることを祈りながら車の中で仮眠しました。残念ながら目覚めたら雨。小雨の中10時頃斑尾山目指して出発。登山口を目指してリフトに乗ったけど、登山口は別とのこと、歩いて下山し登山口へ。(ちょっとしたご愛嬌)往復2時間ちょっとの山行でしたが、草花は秋の気配でした。トンボもいっぱい飛んでいました。

下山後は戸隠キャンプ場目指して出発。我々が一番乗りでした。家族連れが多く、テントの多さにビックリしました。まずはお疲れさん会。夕食のカレーは女性陣は材料を洗って切っただけ、味付けは男性陣がしましたが美味しかったです。

15日は快晴。朝食に昨夜のカレーを食べ戸隠山へ。一不動避難小屋の手前に鎖場があり、少しスリ

主催：町田グライウス山の会（東京都勤労者山岳連盟）  
公開講座

### 低体温症・凍傷にならないためには

2009年7月北海道の大雪山系で同時発生した気象遭難では、10名の登山者の生命が失われました。悪天候下だったとはいえ、トムラウシ山のツアー登山パーティー18人のうち、ガイド1人、登山客7名が低体温症で亡くなっています。低体温症の3大要因は、「低温」、「濡れ」、「風」といわれています。トムラウシでの遭難で見られたように、これは冬山や高峰に限ったことではなく、夏山や低山であっても要因が重なれば、低体温症に陥る可能性を示しています。

冬山や高所登山では、さらに低酸素や血流障害等が重なると患部が「凍傷」になる可能性もあります。万が一凍傷を負ってしまった場合、治療経験豊富な医師の診断・治療が不可欠です。本講座では、日本の凍傷治療の第一人者である金田正樹先生に「低温が登山に及ぼす影響」として、特に低体温症や凍傷



夕食のカレー

ルを楽しみました。山頂からの展望で、あんなところから降りて来たんだとビックリ、ゴツゴツした岩山でした。行きには人が座っていて気づかなかった、九頭竜山の三角点に帰りは皆でタッチ！ 咽喉の渴きを氷清水で潤して、15時半頃無事に下山。夜はトン汁。昨夜同様、女性陣は材料を切り男性陣が味付けをしました。もちろん美味しかったです。

蟻の戸渡りは崩落している所が危険との情報があり、行かれなかったのが少し心残りでした。

16日 晴れ

予定では飯縄山、瑠璃山に登る予定であったが帰りの交通渋滞を考慮し中止し、スキー場から前日の登った高妻山、戸隠山を眺め、日帰り温泉に立ち寄り疲れをほぐした。

の原因とその予防及び適切な対処法と治療法についてお話を伺います。

日時 11月18日(水) 19時～21時

会場 まちだ中央公民館7Fホール

所在地：町田市原町田6-8-1 まちだ109

最寄り駅：JR横浜線町田駅、小田急町田駅

資料代：500円

定員：100名

講師：金田 正樹 医師

申込み・問い合わせ先：町田グライウス山の会

FAX 042-735-6365 (24時間受付OK)

メール machida\_grouse@infoseek.jp



会主催のクリーンハイク

## 10月4日 クリーンハイク山行

ヤビツ峠から出発し大山 唐沢峠 不動尻 広沢寺温泉

川崎ハイキングクラブ

川崎ハイキングクラブ恒例のクリーンハイクは、いつもより少し長めのコースを参加者17名で清掃山行しました。

天候は雨が降りそうな曇り空の中を、ヤビツ峠から、ゆっくり歩いて回りを見ながら登って行くと登山道の脇に古い栄養ドリンクのビンやカン等のゴミがあり、大山山頂に着いた時にはかなりのゴミを拾いました。大山山頂周辺のゴミは、相変わらずありましたが下山が長いので次回にまわすことにしました。下山コースでは唐沢峠までの間



の草原地帯に、作業が終わった後の錆びたワイヤーロープや滑車等の大型ゴミや、又、作業者が捨てたのだろうか、長靴やバッテリー、古い缶、ビン等が、あたり一面に散らばって沢山ありました。このコースは県連のクリーンハイクにも入ってない為か、ゴミの山でした。丹沢水源の森林の標識が在りました

が、これでは不釣合いで問題です。唐沢峠から先の登山道には自転車、捨てて在り、ゴミの多いコースでした。これらのゴミを全部拾うことは、今日の参加人数では、無理で、来年の県連クリーンハイクコースに入れたほうが良さそうです。登山道終点の不動尻では、トイレ休憩中に枯葉の裏や靴底や、ス





パツに付いているヤマビルを発見、又、鐘ヶ嶽から下山の家族の足元にもヤマビルが、付いていました。早速ヒルファイターや塩水、塩等で退治しましたが、やっぱりヤマビルに会ってしまいました。丹沢はいくつかの団体が清掃しているのでゴミも少ないと、思っていました、

今回はゴミの量 可燃 5.5 kg

缶・ビン 48.5 kg

を回収しました。

今年も次回の課題を残しつつ無事に川崎ハイキングクラブのクリーンハイクは、終わりました。



報告 大用ユキ子

## 『花と緑のスポーツ防災公園』の実現のご協力を！

川崎市中原区下小田中の技術校跡地は、県内最大の警察官舎建設ではなく、子どもから高齢者まで憩える「花と緑のスポーツ防災公園」の実現をと、『技術校跡地に「花と緑のスポーツ防災公園」の実現する会』が運動しています。

神奈川県勤労者山岳連盟も加盟している神奈川県スポーツ連盟から理事長の石川氏と川崎市連盟事務局

長の鈴木氏が、住民代表と共に神奈川県と川崎市に要望書を提出しました。

「月刊かながわスポーツ」の記載から石川正士氏の言葉を再掲載させていただきます。

「県連盟は、この要求運動をスポーツができる環境を確保するうえで重要な運動として、地域住民と共に取り組みます。対県要求の重点として提出します。連盟員のみなさん、スポーツ愛好者のみなさんのご協力をお願いします。」

左の図は、イメージ図です。



## 『平成21年度関東ブロック 自然保護交流集会』

### 実施要項 (抜粋)

- 1 テーマ 『ヒト、動物、自然との共生を求めて』  
ヒトの立場からだけでなく、自然環境の中で生きる野生動物や植生にも目配りを行い、共生の視点からの「自然環境の保護、管理」とはいかなることかを見直すことをテーマとする。
- 2 主催 日本勤労者山岳連盟 『山梨山の会』  
『平成21年度関東ブロック自然保護交流集会』実行委員会
- 3 後援 (予定団体:山梨県、南アルプス市)
- 4 期日 10月31日(土)～11月1日(日)
- 5 宿泊施設 山梨県南アルプス市野牛島2722  
『湧暇李の里 樹園』
- 6 参加対象 労山会員及び自然保護に関心のある者
- 7 参加費 (1) 宿泊者(24名) 7,000円  
(宿泊費、資料代、交流会費、2日目昼食代)  
(2) 交流会のみ参加者 2,000円

8 申込方法 別紙申込書(『平成21年度関東ブロック自然保護交流集会』参加申込書)に必要事項を記入し、参加費を振り込みお申し込み(郵送FAX、及びメール)ください。

9 申込み先  
『平成21年度関東ブロック自然保護交流集会』  
実行委員会

(山梨山の会) 塩澤良雄

### 10 日程

#### 第一日目

10月31日(土)12:00～13:00 受付

主催団体挨拶

講演会「野生生物の生態と被害」

『山梨県環境科学研究所』研究員 各連盟

の自然保護報告

交流会(夕食) 都県連盟の紹介、楽器演奏、合唱

#### 第二日目 11月1日(日)

『山梨県森林総合研究所』研究員の説明による櫛形山遊歩道でのシカの食害実態の現地調査を行なう。

15:00解散

## 09年全国自然保護担当者会議

日程=11月14(土)午後1時開会～15(日)  
午前12時解散

場所=長野県信濃大町市 黒部観光ホテル

住所 〒398-0001 長野県大町市平2922

.0261-22-1520 Fax.0261-22-1524

http://www.kurokan.com

### メインテーマ

「地球温暖化と低炭素登山・山岳自然を大事にする登山について考える」

### 1日目(14日)会議プログラム

- ・受け付け開始(午前12時00分より)
- ・開会あいさつ(午後1時～10分)
- ・全国自然保護委員会報告(午後1時10分～30分)

### 講演(1日目)(午後1時30～3時30分)

肴倉孝明氏 「ライチョウの生態系と地球温暖化」  
飯田 肇氏 「北アルプス立山の積雪観測から何が見えるか」

- ・各地方連盟からの報告(午後3時40分～5時30分)

・夕食(午後6時30～7時30)

・交流会(午後7時30分～)

### 2日目(15日)会議プログラム

・朝食(午前7時00分～8時00)

・分科会(午前9時～11時)

#### 第1分科会

地球温暖化により、野生鳥獣の生態系が変化し山

岳自然に影響を及ぼしている現象について考える

#### 第2分科会

山岳自然を傷つけない登山の方法と登山道整備問題について考える

オーバーユースや携帯トイレ問題なども含む

#### 第3分科会

人間の経済活動や社会生活が山岳自然破壊に及ぼす問題について考える

#### 第4分科会

地球温暖化と低炭素登山の方法について考える

- ・各分科会の報告(午前11時10分～11時50分)

分科会の座長及び書記から報告してもらいます。

- ・閉会あいさつ(11時50分～12時)

#### 費用

- ・各県連の参加者一人分の交通費は労山自然保護委員会で負担します。

- ・宿泊費用(一泊二食)は、交流会費含めて1万円(当日集めます)です。

#### 参加申し込み先

日本勤労者山岳連盟自然保護委員会宛て(申し込みは、FaxかE-mailでお願いします)

Fax.03-3235-4324 E-mail:jwaf@jwaf.jp

参加者の氏名と所属県連(会・クラブ名)、電話等の連絡先を記入してください。

会議終了後、長野県連のみなさんが近くの里山のハイキングをオプションとして企画しています。

## 第8回全国救助隊交流集会実施のお知らせ

各連盟救助隊及び救助に携わる関係者の皆さんへ救助隊交流集会のお知らせいたします。2009年度は北信越ブロック協議会のご協力を頂き第8回目の開催となります。

救助技術等の情報交換を行い、救助技術の普及および組織的な温度差を埋めたいと思います。併せて事故防止への活動につながる交流の場にします。

### 実施要綱

日時 10月31日(土) 12:00受付  
11月 1日(日) 12:00閉会

宿泊・会場 国立登山研修所  
〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺ブナ坂6

TEL 076-482-1211

参加費 5000円 (宿泊、食事付)

### 目的

- 1.各県連盟救助隊組織及び救助システムの現状把

=====

## 第11回 東日本女性交流登山集会

in 東京・高尾

～うれしい出会い 新たな感動～

日時：2010年1月23日(土)～24日(日)

場所：【高尾の森 わくわくビレッジ】

新宿から京王線(準特急約42分)

JR中央線(中央特快約44分)/高尾駅下車

高尾駅から：北口バス乗り場1番 西東京バス(霊園01系統)「高尾の森わくわく

ビレッジ」行き。または(霊園02系統)

「グリーンタウン高尾」行き終点にて下車

(約14分)

東京都八王子市川町55 Tel:042-652-0911

Fax:042-652-0944

www.wakuwaku-village.com

募集人員：100名

参加費：10,000円(一泊二食、交流会費込み)

<1/23>12:00受付開始

13:00開会

13:20～14:50【高尾の自然を学ぶ】

講演：橋本良仁氏

<高尾山の自然をまもる市民の会>

15:00～16:30【山野井妙子さんを囲んで】

山野井妙子さんは、誰もが認める日本女性

クライマーの第一人者。2007年NHKスペシャル

「白夜の大崖壁に挑む～クライマー山野井

夫婦」の映像は記憶に新しい。困難に立ち向

かかって、

握

2.救助技術の格差・温度差の解消

3.セルフレスキュー・チームレスキューの普及

参加対象 救助隊員及び救助に携わる会員

記念講演(実技指導含む)

「レスキューは適切な手当から」

恵秀彦氏(ワシントン州救急救命士、労山顧問)

申込締切り日 10月10日までに

・北信越ブロック協議会

山村 勇 〒931-8452 富山市東富山寿町1-1-26

076-438-0238F

E-mail i3mu\_8ma6ra@rainbow.plala.or.jp

・全国連盟遭難対策部

TEL:03-3260-6331(代) FAX:03-3235-4324

E-mail:jwaf@jwaf.jp

主管 北信越ブロック協議会

主催 日本勤労者山岳連盟遭難対策部

かって、 “ やっぱり、楽しいから ” と答える自然な笑顔に勇気をもらった登山愛好家は数知れません。

17:30～19:00夕食\*自由時間に入浴などをどうぞ。

20:00～22:00交流会

<1/24>

7:30朝食

8:30【各コースに分かれて高尾山に出発】

ケーブル～4号路～山頂～1号路～ケーブル

1号路～山頂～稲荷コース

蛇滝コース～4号路～山頂～稲荷コース

琵琶滝コース～4号路～山頂～稲荷コース

【申し込みについて】会単位で申し込んでください。

申し込み締め切り：2009年11月30日

申し込み先：東京都勤労者山岳連盟 女性ネットワー

ク

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24号

(メール: info@twaf.jp)

問い合わせ・連絡先：小林光子

メールアドレス: mitu-koba@tb3.so-net.ne.jp

振込先：郵便振替口座 00150-0-193390 労山都連

盟事業費

## 9月事務局長会議の報告

9月8日 19時より21時 県連盟事務所にて  
 内容 連盟より伝達事項 理事会開催 13日県民  
 サポートセンターにて  
 連盟ニュースの交付 スポーツ連盟ニュー  
 スの交付  
 事務局より会員数 納入情況 会員数の把握  
 各会より主要報告 活動 登山活動ほか  
 本日の主要テーマ 登山における自己責任  
 とは 別紙資料中山作成  
 次回テーマは会員外山行と会の対応、安全  
 指導についてです。  
 出席会 藤沢山の会・横浜HC・AC横浜・やま+  
 +・柴笛クラブ みずなら山の会・カモの会・  
 川崎HC・川崎労山・こぶし・雪童・相模AC  
 連盟役員から三上、小野寺、蝦名、中山の出席

### 主な発言(報告)

いくつかの会では夏山合宿、教育山行が取り組ま  
 れ会としての役割を果たしていることを知った。会  
 が取り組む山行より個人の志向による山行が多く、  
 次回のテーマともなった会員外山行と家族や友人と  
 の山行に対して会は如何様に対処するのかが関心事  
 となった。9月の話し合いに関しては別紙自己責任  
 参照。会の活動もそれぞれ個性をだして、例えばこ  
 ぶしの30周年記念登山、川崎の坊主岩ルート取り  
 組み、川崎ハイクのナビと読図についての教育活  
 動、アルパインの休会会員の現状、藤沢の夏合宿戸  
 隠・海外など積極的な山行、雪童の北鎌尾根の取り

組みなど興味ある報告でした。連盟からは理事の補  
 充、連盟活動への参加と理解を蝦名、小野寺理事か  
 ら訴えました。次回の機関誌原稿として藤沢と山+  
 +の活動紹介としてお願いをしました。

前回の話し合いで(遭難事故における)自己責任が  
 今回のテーマとなりました。団体、会、会員それぞ  
 れに事故の原因があれば責任を負うとの基本的な理  
 解がないと事故者本人に責任があると考える考  
 え方に傾きます。それには理由があり、会としての安全  
 管理や教育がなされないことから、またリーダーとし  
 ての役割を果たしておらず単なる引率か世話人のよ  
 うな気軽な考えで登山が組まれていることにありま  
 す。ここが社会の常識と異なる時山岳会として役  
 割と責任を負っていないと指摘されます。その開き  
 や矛盾は拡大する方向にあり事故防止とは逆方向に  
 向かっています。このことは連盟、会がきちっとし  
 た認識のうえに立ち可能なことから手を着け会員の  
 心構えや技量をしっかりとしたものにする必要があ  
 ります。

次回のテーマとした会員外山行の問題点もおなじ  
 ような危惧を感じます。

事故の問題は登山活動ときりはなせず逃げずに向  
 き合うことでしか解決しません。

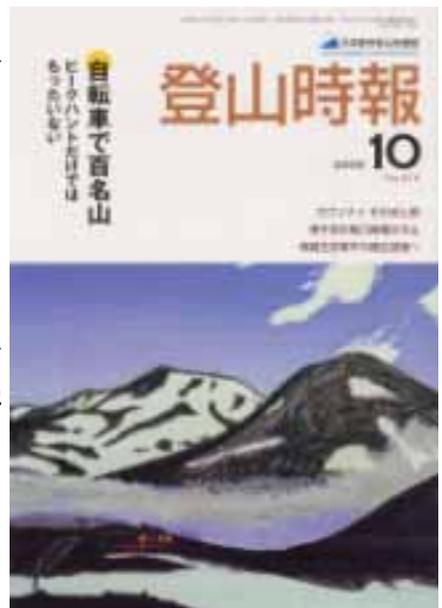
まずは役員会で、リーダーがメンバーとともに不  
 安や疑問を指摘して具体的な解決に手を付けるよう  
 進言するものです。

次回テーマの私の実際におこなった指導や管理に  
 ついて、また問題点の指摘を用意しておきます。

以上報告は中山

登山時報 10月号 目次  
 自転車で日本百名山/ピークハント  
 だけではもったいない圓尾勝彦 04  
 魅惑の山々 2010年カレンダー  
 申し込み受付中 06  
 カウンナイその光と影 吉成久和13  
 根子岳の風力発電計画は中止を決  
 定 木村輝佳 16  
 南蔵王芝草平での取り組み/入山調  
 査活動から植生回復への挑戦  
 藤井将喜 小山修18  
 大雪山系遭難事故/  
 それでも伊豆の仲間は無事下山  
 した 田上千俊/ 美瑛岳遭難小  
 屋での遭遇 斉藤道子 22  
 <普段着の山>光射すブナの森  
 鈴木澄雄 03  
 山のスケッチ 盛岡山友会 08  
 連載 クイズ地図読み迷人  
 村越真 宮内佐季子 09  
 野鳥との出会い/ヤマドリ  
 小枝琢三 福井壽彦 10  
 シグナル 総選挙の結果と日本社  
 会の未来 斉藤義孝 12

東北地区女性交流集会inZAO  
 森谷金子21  
 山での救急法(5)全国連盟遭難対  
 策部 24  
 タカトリ今昔物語 古川純一 25  
 山で気になるカンキョーの話  
 菊地敏之 26  
 連載 碧い南の島だより雨宮節 27  
 JWAFクリック28/全国連盟の活動31  
 専門委員会活動報告 32/編集後記  
 34  
 インタビューひと 石田良恵さん  
 後藤功一 35  
 地元会員特選ミニガイド  
 北海道・ニセコ鉱山跡/藤本悦子  
 福岡・香春岳/吉野和記 36  
 ブックエンド『荒野へ』他 下机勉  
 他 38  
 あらがると「登山は文化かスポ  
 ツか」 原真 39  
 会報えつらん室 寄贈編  
 中島典子 40  
 オススメ山道具進化したランタン  
 笹原芳樹 42



# 神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

## 川崎勤労者山岳会

報告：小池 秀子 計43名(男27 女16)平均 歳

9/5-6 小川山(1+2)	中央カソテ(2)	9/21 中央沿線・太刀岡山(2)	9/26-27 越前岳・愛鷹山・十里木(3)
9/5-6 蝶ヶ岳・常念(1)	9/19-23 小川山(4)	9/21-23 北岳・小太郎山(1)	9/26-27 日光白根・男体山(2)
9/5-6 縞枯・北横岳(3)	9/19-23 甲斐駒ヶ岳・坊主岩(6)	9/25-27 立山・五色ヶ原(2)	
9/5-6 甲府幕岩(3)	9/20-23 甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根～仙丈岳(3)	9/26-27 檜洞丸(4)	
9/13 富士山馬返・吉田口-7合目(2)	9/21 四国・石槌山(1)		
9/13-14 谷川一の倉・中			

## 川崎ハイキングクラブ

報告：二瓶 誠 計101名(男50 女51) 平均62歳

8/16-20 表銀座/北アルプス(4)	鳥尾山/笹子(5)	ヶ岳/東北(8)	10/17-18 赤城山/群馬
8/21-22 富士山(5)	8/30 至仏山/尾瀬(14)	9/12 愛鷹山/伊豆(7)	10/18 三ヶ峠/富士山周辺
8/22-23 鷹巣山/奥多摩下見山行(4)	9/5 二王子岳/飯豊山周辺(3)	9/12-15 劔岳/北アルプス(3)	10/18-20 至仏山/尾瀬
8/22-24 穂高岳/北アルプス(2)	9/5-6 守屋山/諏訪(6)	9/13 日の出山/奥多摩(10)	10/25 小樽山/奥秩父
8/23 大蔵高丸/大菩薩嶺(7)	9/6 矢平山/上野原(17)	9/13 日の出山/奥多摩(10)	10/25-28 大峰山/熊野古道
8/23-25 白馬岳/北アルプス(1)	9/6 葛葉沢/丹沢 県連H学校(2)	10/1-4 月山・鳥海山/東北	11/1 浅間嶺/奥多摩
8/27 浜石岳/静岡県(1)	9/8 男体山・女峰山/日光(2)	10/4 ヤビツ～大山～広沢寺 クリーンハイク	11/7-8 四阿山/新潟
8/29-30 笹子雁ヶ原・鶴ヶ	9/10 大羽根山/奥多摩(2)	10/11-12 鷹巣山/奥多摩交流ハイク	11/15 飯森山/八ヶ岳周辺 公開バスハイク
	9/11-12 富士山(2)		11/15 奥多摩湖畔
	9/11-13 姫神山・秋田駒		11/18 シダゴ山/丹沢

## 川崎柴笛クラブ

報告：雪竹雅士 計32名(男19 女13)平均48歳

9/5-7 前穂高屏風岩(2)	西横川(2+1)	9/13 鍋割山(1+1)	9/21 雲取山(1)
9/5-6 ナルミズ沢(1+5)	9/10-13 日高幌尻岳～戸蔦別岳縦走(1)	9/19-22 北岳(3)	9/26-27 甲斐駒ヶ岳(2+2)
9/5 越沢バットレス(2)	9/13-14 北岳(2)	9/21 御岳高原(1+1)	9/27 明神ヶ岳(6)
9/6-7 錫杖岳(1+1)	9/12-13 白馬鍾温泉(2)	9/22 恵那山(1+1)	9/26-27 尾瀬(1+1)
9/6 御岳(1)	9/18-20 七面山(1)	9/19-22 飯豊連峰(3+1)	9/27 高尾山(第13回 高尾山森林走遊学大会)(1+1)
9/6 大倉尾根から塔の岳(1)	9/12 高尾山(1)	9/20-22 南八ヶ岳/編笠山 権現岳 赤岳(1+1)	9/26-27 御岳山-大岳山(1)
9/6 三頭山-大岳山(1+1)	9/20-21 錫杖岳(2)	9/20-22 表銀座(1)	9/26-27 鶏冠山(1)
9/12 小浅間山(1+1)	9/19-23 聖・赤石・荒川三山(4)	9/27 湯川(3)	
9/13 天竜川 中御所谷		9/22-21 扇山(1+1)	

## アルパインクラブ横浜

報告 = 岸 計38名(男23 : 女15) 平均 歳

9/1-4 北アルプス/雲の平-鷲羽岳-野口五郎岳(1+1)	9/6-7 湯掛首川本谷～ナルミズ沢下降(2+2)	9/21 奥武蔵 金勝山(1+1)	9/26-27 北岳バットレス 第4尾根(1+1)
9/5 会津磐梯山(2)	9/12-13 北岳(1+4)	9/21-22 日光根名草山・白根山(2)	9/26-27 石鎚山(1+1)
9/5 湯川(2+1)	9/13 広沢寺・弁天岩(3)	9/21-22 伊豆城山(1+1)	9/26-27 立山三山(1+4)
9/5-7 蝶ヶ岳(1+18)	9/14-15 小川山(2)	9/26 一ノ倉沢烏帽子岩 南稜(2)	9/27 塔ノ岳-鍋割山(1)
9/6 一ノ倉沢 衝立岩中央稜(1+1)	9/19-22 小川山(2+10)	9/26 硫黄岳-赤岳(2)	9/27 瑞牆山十一面末端 壁(1+1)
9/6 鬼石沢(3)	9/19-23 剣岳(3)	9/26 丹沢・三ノ塔、岳の台(2+1)	9/29 二子山 中央稜(2+2)
	9/19-23 剣岳-上高地(1)		
	9/20-23 剣岳(6)		

## 横浜ハイキングクラブ

報告 = 池上準子 計58名(男21 : 女37) 平均62歳

9/10 室内例会(38)	10/4-6 上高地-横尾-涸沢	11/7-8 大倉-丹沢-蛭ヶ岳
9/12-13 八ヶ岳・唐沢鉱泉(県)(8)	10/8 室内例会	11/21 御前山
9/20-21 白樺峠 鷹渡り見学と乗鞍	10/16-18 餓鬼岳-燕岳	11/28 飯山観音-七沢自然公園
9/27 高水三山	10/18 三頭山・都民の森-三頭山	11/ 西御荷鉱山
10/3-6 上高地-横尾-涸沢-奥穂高	10/24 丹沢ヨモギ平(読図山行)	
	11/1 湯坂道	

**横浜こぶしの会**

報告=田辺美由紀 計27名(男18人 女9人) 平均52歳

9/11-13 北岳(2)中止	9/18-21 飯豊山(3)	9/26 高水三山(5)	10/11-12 雨飾山(5)
9/18-21 月山(2)	9/19-23 朝日連峰(1)	9/26 軍刀利沢(4)	11/14-15 ハケ岳
9/18-21 大深沢(2)	9/26-27 こぶし祭り(10)	10/9-12 朝日連峰(3)	

**藤沢山の会**

報告=中河原昭夫 計82名(男39:女43) 平均62歳

9/2 運営委員会	竜(3)	(5)	10/14 例会
9/3 奥多摩・本仁田山(4)	9/17 湘南・大楠山、畠山	9/20 長野・風越山(2)	10/9-12 北ア・赤木沢
9/5-6 教育部フット泊・仙丈岳(5)	(8)	9/23 室内例会(30)	10/17-18 三つ峠(教育部岩ト)
9/8 機関誌印刷	9/19 奥多摩むかし道を歩く(13)	9/25-27 米子沢(7)	10/21 30周年実行委員会立ち上げ
9/9 室内例会(35)	9/19-21 上信越・越後三山(3)	9/26 花の観察会・明神岳(16)	10/25 丹沢・大野山(会クリソバ)
9/13 富士周辺・高川山(3)	9/19-21 上信越・恋ノ岐沢(2)	9/28 入会説明会(2)	10/28 例会
9/13 会ハク・棒ノ折山(8)	9/19-22 東北・朝日連峰	9/30 会ハク・大山	10/31 南ア・山伏
9/14-16 北ア・唐松、五		10/7 運営委員会	
		10/13 機関誌印刷	

**相模アルパインクラブ**

報告:水村和也 計41名(男29:女12) 平均52歳

8/29 四町四反沢(8)	(1)	9/19-22 五色ヶ原~立山	9/18-23 谷川岳 一ノ倉
8/29 鍋割山(1)	8/28-9/12 インド キン	(1)	沢・幽ノ沢(2)
8/29-30 小川山(1)	ノール(1)	9/22 広沢寺(2)	9/20-23 北岳パットレス
9/5-6 小川山(2)	9/13 広沢寺(1)	9/18-22 朝日連峰(2)	4尾根(3)
9/4-6 針ノ木岳・種池(1)	9/11-13 三つ峠(4)	9/23 三の塔(1)	予定
9/4-6 雪彦山(1)	9/13 三つ峠(6)	9/18-23 甲斐駒ヶ岳 赤	9/26-27 富士山(1)
9/6 甲府幕岩(3)	9/13 幕岩(1)	蜘蛛・奥壁中央稜(2)	10/9-12 赤谷山(1)
9/6 城山(1)	9/18-20 霞沢岳(1)	9/21-23 穂高連峰 西穂	
9/5-7 雪倉岳・梅海新道	9/18-21 小川山(1)	~奥穂(2)	

**みずなら山の会**

報告:阿部ひろみ 計31名(男21 女10) 平均 歳

9/11 越沢パットレス(1+2)	(2)	9/27 ハケ岳 麦草峠~	の廊下黒部~仙人小屋
9/11-1 南アルプス 北岳(1+3)	9/21-23 伊豆 海金剛	北横岳(4)	(2)
9/13 丹沢 大山川(2+2)	城ヶ崎(1+2)	10/1-3 奥穂~前穂(2+1)	10/9-12 妙義山(1+6)
9/13 富士山(1+2)	9/22 ハケ岳 県界尾根~	10/2-4 北アルプス 唐	10/9-12 白馬岳~唐松岳
9/17 十二ヶ岳(2)	赤岳	松岳(7)	(3+1)
9/19-21 小川山(8)	9/23 丹沢 大倉~塔	10/3-4 北アルプス 小	10/11 谷川岳 一ノ倉南
9/19-21 小川山(1+3)	9/25-27 妙義山中木食洞	蓮華岳(1+4)	稜フランケ(1+1)
9/18-21 朝日連峰(1+2)	穴沢登り(1+6)	10/3-4 小川山(2)	10/17 奥多摩 ウトウの
9/18-22 ハツ峰上半部~	9/26 丹沢 鍋割山~塔	10/3-5 北アルプス 水	頭読図(5)
池の平(1+?)	(4+2)	晶~双六岳(1)	10/24-26 奥大井 山犬段
9/20-21 小川山・五郎山	9/26-27 日光白根山・男	10/9-11 北アルプス 下	
	体山(1+1)	の廊下樺平~黒部(6)	
	9/27 鷹取山(3)	10/9-12 北アルプス 下	

**やま+**

報告:栗田 彰 計11名(男8:女3) 平均50歳

9/5-6 やま+祭(9+2)	9/19-22 南ア・地藏尾根	山	10/28 例会
9/9 例会・セルフレスキュー座学(11+1)	~仙丈ヶ岳~北岳(4)	10/10-12 上越・雨飾山	10/30-11/3 四国・伊予
9/13 奥多摩・水ノ戸沢(4)	9/21-22 南ア・鳳凰三山	~妙高山~火打山	富士~東赤石山
9/13 北八・蓼科山(2+1)	(2)	10/14 例会	
	9/30 例会(10+1)	10/15-17 東北・栗駒山	
	10/10-12 上越・越後三	~早池峰山	

**2009丹沢クリーンハイク報告集ができました。**

A4版、22ページです。県連事務所にあります。  
県連盟のホームページに掲載されています。

## 県連のスケジュール

10月			11月			12月		
1	木	遭対部会	1	日	関東B自然保護集会(山梨) 第9回全国救助隊交流集会	1	火	常任理事会
2	金		2	月	常任理事会	2	水	登山リーダ養成学校机上講習
3	土		3	火		3	木	
4	日		4	水	登山リーダ養成学校机上講習	4	金	
5	月	常任理事会	5	木		5	土	
6	火		6	金		6	日	
7	水	登山リーダ養成学校机上講習	7	土	岩場のセルフレスキュー講習 HCリーダ学校実技講習 岩場のセルフレスキュー講習	7	月	
8	木		8	日		8	火	事務局長会議/連盟news発行
9	金		9	月		9	水	
10	土		10	火	事務局長会議/連盟news発行	10	木	
11	日		11	水		11	金	
12	月		12	木		12	土	登山リーダ養成学校実技講習
13	火	事務局長会議/連盟news発行	13	金		13	日	登山リーダ養成学校実技講習
14	水		14	土	全国自然保護担当者会議	14	月	
15	木	HCリーダ学校机上講習	15	日	全国自然保護担当者会議	15	火	全国理事会/救助隊運営会
16	金		16	月		16	水	
17	土	埼玉主管救助隊技術交流会	17	火	全国理事会/救助隊定例会	17	木	事務局部会
18	日	HCリーダ学校実技講習 埼玉主管救助隊技術交流会	18	水	町田グlaus公開講座	18	金	
19	月		19	木	事務局部会	19	土	
20	火	全国理事会	20	金	HCリーダ学校修了式	20	日	
21	水		21	土		21	月	
22	木	事務局部会	22	日		22	火	
23	金		23	月		23	水	
24	土		24	火		24	木	
25	日	藤沢山の会クリーンハイク	25	水		25	金	
26	月	自然保護委員会	26	木		26	土	
27	火		27	金		27	日	
28	水		28	土	第21回全国海外登山集会	28	月	自然保護委員会
29	木		29	日	第21回全国海外登山集会	29	火	
30	金		30	月	自然保護委員会	30	水	
31	土	関東B自然保護集会(山梨) 第9回全国救助隊交流集会				31	木	

### 2009年度以降の全国的な規模の集会・会議予定

女性のためのヒマラヤ学校

6月23日～10月27日 6コース  
(インドヒマラヤ、ヒマチャール州)

MFAインストラクター養成講座

秋(未定)

第9回全国救助隊交流集会

10月31日～11月1日(富山県・登山研修所)

全国自然保護担当者会議

11月14日～15日(長野・信濃大町)

町田グlaus公開講座

11月18日(水)(まちだ中央公民館)

第21回全国海外登山集会

11月28・29日(千葉県検見川総合運動場)

第11回東日本女性登山交流集会

2010年1月23日～24日(東京・高尾の森)

第29回全国総会

2010年2月20日～21日(東京・晴海GH)

第24回雪崩事故を防ぐための講習会

2010年2月12日～14日(中ア・宝剣岳、黒姫山)